

# w/d. 糖尿病



- 食物繊維を多く含み、血糖値の変動を抑えることに役立ち、糖尿病の管理をサポート
- 筋肉量の維持と体脂肪とのバランスに配慮して高レベルのL-カルニチンを配合
  - ❖ 肥満（防止）、大腸炎、下痢・便秘、高脂血症（ドライ製品）、肥満傾向の犬と猫のストルバイト尿石の管理にも適応
  - ❖ 肥満傾向の成犬・成猫の健康維持にも適応

# m/d. 糖尿病

〈猫用〉

- 糖尿病の猫の代謝状態を考慮し、低炭水化物・高蛋白質の栄養組成
- 筋肉量の維持と体脂肪とのバランスに配慮して高レベルのL-カルニチンと蛋白質を配合
  - ❖ 猫の肥満（減量、肥満防止）の管理にも適応

## 食事管理のポイント

- 繊維を多く含むフードを与えましょう  
繊維は、血糖値の急激な変動を小さくすることに役立ちます。
- L-カルニチンを多く含むフードを与えましょう  
L-カルニチンは、エネルギー代謝の適正化をサポートします。
- 猫には低炭水化物、高蛋白質のフードも選択できます  
低炭水化物、高蛋白質の特別な栄養組成をもつフードは、血糖値の調整を助けます。



ヒルズのプリSCRIPTION・ダイエット  
糖尿病管理用フード

# w/d. m/d.

※ 獣医師の指示にしたがって与えてください。

## w/d. 糖尿病

〈犬用〉 ドライ 1kg, 3kg, 7.5kg  
缶詰 156g, 370g



〈猫用〉 ドライ 500g, 2kg, 4kg  
缶詰 156g



## m/d. 糖尿病

〈猫用〉 ドライ 500g, 2kg  
缶詰 156g



病院名



販売元  
日本ヒルズ・コルゲート株式会社  
〒135-0016 東京都江東区東陽3-7-13



販売総代理店  
大日本住友製薬株式会社  
〒553-0001 大阪市福島区海老江1-5-51

愛犬愛猫に関する情報 ヒルズホームページ <http://www.hills.co.jp>

※製品のデザイン・重量などは変更することがあります。

2008.06



## 犬と猫の 糖尿病のおはなし



### 糖尿病とは

糖尿病は生活習慣病のひとつで、人では成人の10人に1人が糖尿病だといわれています。ペットにおいても、近年の肥満の増加とともに、糖尿病が増えているといわれています。糖尿病は、症状がわかりにくく、治療されないまましていると、白内障（犬）やさらに深刻な状態へ進行することもあり、注意が必要です。



※定期的に獣医師の診察をお受けください。

## 糖尿病の要因

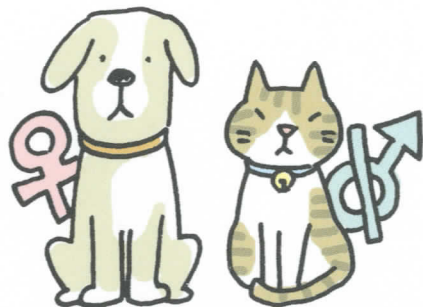
### ■ 体型 (ボディ・コンディション)

体重過剰のペットは糖尿病になりやすいといわれています。猫では肥満があるとインスリン非依存性糖尿病 (NIDDM) の発生率が4倍になります。

### ■ 性別

犬ではオスよりもメスの方が糖尿病になる確率が2倍高いといわれています。

猫では去勢したオスが糖尿病になりやすいといわれています。



### ■ 年齢

8歳前後が糖尿病発症のピークといわれています。

### ■ 品種

次の品種は、糖尿病になりやすい傾向にあります。

犬：サモエド  
ミニチュア・シュナウザー  
ミニチュア・プードル  
パグ

猫：バーミーズ

### ■ 食事の炭水化物が少ないと、脂肪の蓄積が減少

蛋白質、炭水化物、脂肪の3つの栄養素からエネルギーが供給されます。過剰に摂取された炭水化物は脂肪となって体内に蓄積されます。炭水化物の少ない食事は、体内に蓄積される脂肪を減少させます。

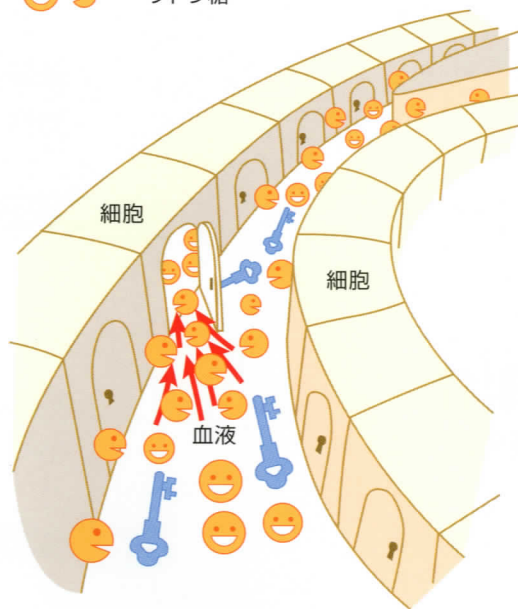
## 糖尿病のしくみ

食後、消化吸収され血液に入ったブドウ糖 (血糖) は、すい臓から分泌されるホルモンであるインスリンの手助けによって細胞に取り込まれ、エネルギーとして利用されます (下図)。糖尿病はすい臓からのインスリン分泌が不足したり、インスリンに対する体の反応が鈍ることで血糖が細胞で利用されず、血糖値の高い状態が続く代謝異常です。

### 血糖値調節のしくみ

 インスリン

 ブドウ糖



血糖値が高くなるとすい臓からインスリンが放出されます。インスリンは細胞のドアを開けるカギの役割をもち、血液中のブドウ糖 (血糖) の細胞への取り込みを手助けします。血糖が細胞内へ取り込まれると、血液中の血糖も少なくなり血糖値が下がります。

## ! こんな症状が出たら要注意

日ごろからペットの行動をチェックして、以下のような症状が見つかったら、早めに動物病院にご相談ください。

- 水をたくさん飲む
- 尿をする回数が多い
- たくさん食べているのに痩せてきた
- 眼球が白くにごる (白内障: 犬の場合)
- 食欲が変化する  
(糖尿病の初期では食欲が増し、病状が悪くなると食欲は減少します。)



## 🏠 ホームケア

- 獣医師の指示をしっかりと守りましょう  
インスリンや経口血糖降下薬などを投与している場合、投薬量や時間を正しく守りましょう。また、食事の内容や回数、食量、運動量などを指示通りに行うことが重要です。
- 新鮮で、清潔な水を与えましょう
- ペットの行動を注意深く観察しましょう  
もし、ペットの様子に変化がみられたら、すぐに獣医師に相談してください。